

校長挨拶 （校長 小倉 裕史）

昨日、1年生の入学式、2,3年生の始業式が行われて、令和5年度がスタートしました。入学式も始業式も、校歌を大きな声で歌っている皆さんの姿をみて、大変嬉しく思いました。今日は初めて全校生が集まりました。

1年生は、まだ緊張一杯だと思いますが、2,3年生の先輩は温かく色々と小野高校の事を教えてあげてください。全校生が小野高校に来て良かったと思えるよう、本校の良い所を一杯見つけてください。

さて、人生の宝は何でしょうか。今NHKの大河ドラマで「どうする家康」が放映され、徳川家康の今までとは違った生き方が注目されています。豊臣秀吉と徳川家康のエピソードで、豊臣家と徳川幕府の違いを紹介します。

ある日、関白・秀吉が、諸大名の前で、「わしは、天下の有名な宝を、ほとんど集めた」と言って、指を折りながら刀や茶碗の名を挙げ、自慢を始めました。やがて、徳川家康に向かって、「そなたの、秘蔵の宝物は何か」と問いかけました。家康の答えは意外でした。「ご存じのように、私は三河（今の愛知県）の片田舎で育った無骨者ですから、珍しい宝物は持っていません。ただし、私のためならば、火の中、水の中へも飛び込み、命懸けで働いてくれる部下を五百人ほど持っています。この五百人を召し連れると、日本中に恐ろしい敵はありませんので、この部下たちを第一の宝と思って、平生、秘蔵しております」と答えました。さすがの秀吉も、顔を赤らめて、一言も返事ができなかったと言います。

これは、秀吉と家康の考え方の違いをハッキリ表すエピソードです。二代目で滅びた豊臣家と、三百年も続いた徳川幕府の違いとなって、歴史に刻まれているように思います。

皆さんは、先ほど転出される先生方から温かい言葉を聞いて感動したと思いますが、本校の温かい先生方や保護者に励まされ、良き仲間や先輩とともに、互いに励ましあって、同じ小野高校で学ぶ素晴らしい仲間という一生の宝を、身に着けてください。

全校生が、切磋琢磨して、可能性を信じて挑戦し続ける集団になって欲しいと願っています。